

吉田佳道 竹の花籠展
齊藤謙大の花と共に



あじろ細筒 幅7 奥行3 高さ28cm



六ツ目舟形盛器 幅45 奥行29 高さ18cm



黒竹広口(小) 幅9 奥行9 高さ18cm

二〇一八年 十月六日(土) ~ 十四日(日) 会期中無休

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール

長野県安曇野市に暮らす吉田佳道さんは竹の芸家です。1962年生まれ、56歳。大学卒業後に生花会社に勤め、その仕事を通して竹に興味を持ちました。会社を3年で辞し、竹工芸の盛んな大分県別府市の訓練校で学びます。基礎を身につけた後も暫く大分県で修業を続けますが、やがて縁のない安曇野市に居を移し31歳で独立を果たしました。以来、暮らしの中の竹工芸を主に活動を続けています。

直線的で清らかな素材、竹。竹林に入るとその清々しい空気に誰もが心洗われることでしょう。日本各地で植生し、昔から建材や生活道具として使われてきた身近な素材ですが、個人の芸作家が花開くのは意外と遅く、明治時代に煎茶趣味と共に中国から入ってきた竹工芸がきっかけでした。現在は伝統工芸の美と技の粋を求める領域を頂点に、生活道具の竹籠などを中心に作る若い作家も増えています。そのような中、吉田さんは暮らし側から見た竹の美の在り方を求めて日々制作しています。それは伝統工芸の特殊領域でもなく、また温々とした生活道具の文脈とも一線を画しています。極に寄らずに両者の間に座する竹の可能性とは何か。竹と花が日常にもたらず凛とした空気。美と暮らしを繋ぐ竹の花籠の長年の提案は、吉田さんの矜持なのです。

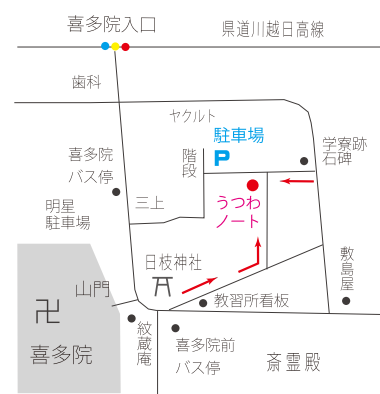
今展では吉田さんの竹の花籠を中心にしながら、旅茶籠、茶釜筒、茶巾筒、盛り皿、コースターなども展示します。また吉田さんの花籠を使って華道家の齊藤謙大さんに花を活けて頂くと同時に、日常のヒントになるいけばなワークショップや齊藤さん自ら栽培した山野草の販売も併せて行います。ギャラリーの庭木が色づくのはまだ先ですが、店内ではひと足先に秋の気配に包まれることでしょう。皆様のご来店をお待ちしております。 店主

*いけばなワークショップの申込み方法

日時：10月7日(日)、10日(水)、14日(日) ①部 11:30～13:30 ②部 14:30～16:30 各回4名様
参加料金6000円 花材の草花、花鉢など必要なものはこちらで用意します。「いけばなワークショップ申込」を題名に、お名前・携帯電話・希望日時・人数をお書き添えの上、utsuwanote@gmail.com にメールでお申込み下さい。先着順。

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL: 049-298-8715
MAIL: utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用駐車場は北側(5～8番)

さいとうけんた
齊藤謙大
プロフィール
1975年 茨城県生まれ
2003年 野草生産者に従事
2008年 茨城県古河市にて独立
2018年 野草生産を通していけばなを行う



あじろ広口(黒)
幅9 奥行9 高さ23cm

吉田佳道 竹の花籠展

齊藤謙大の花と共に

二〇一八年十月六日(土)～十四日(日) 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 十月六日(土)・七日(日)
齊藤謙大さんのいけばなワークショップ 十月七日(土)・十日(水)・十四日(日)



しましま 幅25 奥行25 高さ20cm



橋門亀甲皿 幅42 奥行31 高さ3cm